

組織部速報

2022年 11月 24日
No. 31

第34回政策発表会開催!!

11月21日、第34回政策発表会を開催しました。各地本、部会、労連を代表した10課題が発表され、関西地本岡山支部技術部会の「今後の技術継承の在り方」が最優秀賞に輝きました。

2.テーマ選定

- ・新規採用や中途採用により人員は増えてきたが、一方でベテラン組合員の定年退職や若年退職の影響もあり技術力が下がっているのでは？
 - ・技術力を持った組合員が減っているため、教育や技術継承・担務見習いが難しい。
 - ・自区配置以外の車両を目にする機会、触れる機会が少ない
↳従来形式車や配置区とならなかった新形式車(例EF64、DD200、EF210-300番台)。
- 作業の様子や自区にない車種の検査の様子を動画で撮影しておけば、技術継承や教育に役立つのでは？

今後の技術継承の在り方を考えよう！



【最優秀賞】 関西地本岡山支部技術部会 「今後の技術継承の在り方」

【社長賞】 関東地本長野支部 「長野地区から新たな輸送を考える」

【優秀賞】 ・関西地本金沢支部金沢分会 ・南関東ロジスティクス労組
「封印環が生む問題」 「新旧トレースの比較と要望」

【努力賞】 北海道地本 札幌機関区運転部会 「鹿衝突時における適切な列車防護の取り扱い TEの必要性」
東北地本福島支部 「福島支部版JR貨物労組加入パンフレットの制作」
関東地本東京支部 「JR貨物の未来はこれで良いのか？俺たちの考えはこれだ！」
東海地本稲沢駅分会 「駅教育実施要領 従の操車認定の改善案」
九州地本小倉車両所分会 「小倉車両所プロジェクト」
全国技術部会 「私達の考える国土強靱化計画II」

鉄道貨物輸送の未来を切り拓き、
私たちの職場と仕事と生活を守ろう！

(JR貨物労組存立基盤確立プロジェクト報告)

 日本貨物鉄道労働組合
Japan freight railway works union

中央本部「存立基盤確立プロジェクト」の報告も行なわれました！

2. (青函トンネル共用走行区間)

現行、新幹線は安全確保として160km/hに落とす走行。
→所要時間が増加している。
札幌延伸までに速度向上を検討されている。

しかし…

走行する貨物列車
1日平均
上下38本
秋冬繁忙期
上下51本

新幹線を高速運転させる場合
毎日の保守閉鎖4時間
+
高速走行の事前確認作業1時間
閉鎖が必要！

◎貨物列車のダイヤを確保できず、
運行本数が制限される恐れ
貨物新幹線は2031年春の開業には間に合わない！



同時開催「第31回全国写真展」